

5- (1) 潮流情報の収集と発信

太田武行・藤岡秀文

目的

県で2011年度に沿岸潮流観測ブイ(以下「ブイ」という。)を2箇所に設置しており、現在、3機のブイをローテーションしている。本事業は、ブイの観測データを水産試験場に設置している潮流情報自動提供システムを用いて、漁業者へ潮流情報を安定的に提供することを目的とした。

方法と結果

① ブイの保守管理

鳥取市酒津沖及び大山町御崎沖に設置したブイの位置を示す(図1)。ブイの保守管理は基本的に漁業者(鳥取県潮流情報利用調整協議会:2012年9月設立)が実施することとなっているが、技術的な指導を行うため、洋上設置しているブイの清掃作業や交換には水産試験場の職員が立ち会い実施している。

各ブイの管理状況等は次のとおりである。

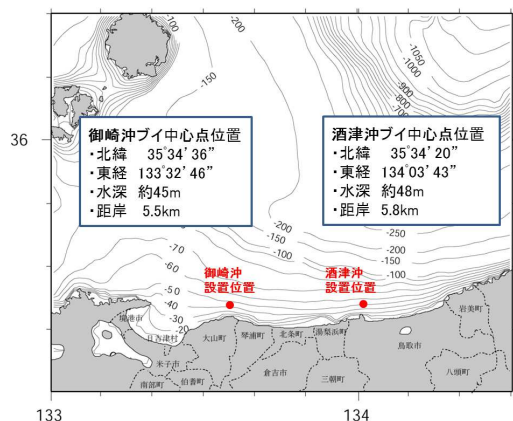


図1 沿岸潮流観測ブイの設置位置

【御崎沖ブイ】

- 2023年9月15日に潮流データの数値異常を確認した。
- 9月27日に試験船「第一鳥取丸」で東西両側の標識灯(ハンディブイ)消失を確認した。
- 9月28日にバッテリー電圧が低下したため観測を自動停止した。
- 10月30日にブイ1号機を回収した。
- 12月11日にブイ新2号機の修繕とオーバーホールが完了し、水産試験場に納品された。
- 12月28日にブイ新2号機の設置に向かうものの、東側係留部のフロート以下が流失しており、再設置ができなかった。

- 2024年1月11日に流失した部分の製作委託等を鳥取県漁業協同組合御来屋支所に委託し、3月21日に納品があった。

【酒津沖ブイ】

- 6月15日にブイ新2号機と3号機を交換し、係留部の清掃を行った。なお、新2号機は、2023年3月29日の清掃の際に確認されたとおりブイの側面に凹みがあり、今回、改めて点検すると、流向流速計の音波発信部をガードする枠もゆがんでいることが判明した。
- 6月22日に新2号機の修繕とオーバーホールのため、製造元に輸送した。

【自動電話応答サービス】

- 2024年1月28日に電話自動応答サービスの心臓部である音声カードが破損していることが判明し、カード交換を行い3月6日に復旧させた。

② 潮流情報の提供

2011年度に水産試験場内に整備した潮流情報自動提供システム(2020年1月にシステム更新実施)により、電話応答サービス、電子メール、ホームページで漁業者に潮流情報をリアルタイムに提供した。

2023年12月末日現在の漁業者の利用登録件数は313件で、2023年1月1日から12月末日における電話応答サービスの利用件数は16,153件、ホームページの利用件数は67,504件であった(図2)。また、同システムを改修し2024年2月から新たに沿岸漁船が観測した潮流情報の提供の本格運用を開始した。

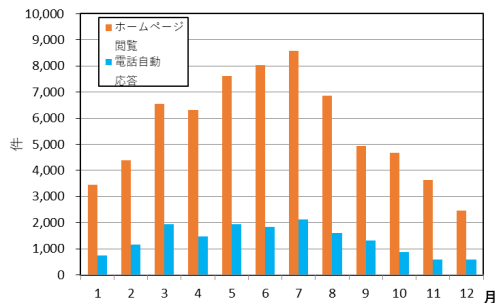


図2 潮流情報自動提供システムにおける電話応答サービス及びホームページ利用件数